

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立田原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	57人	社会	57人	数学	57人
	理科	57人	英語	57人		

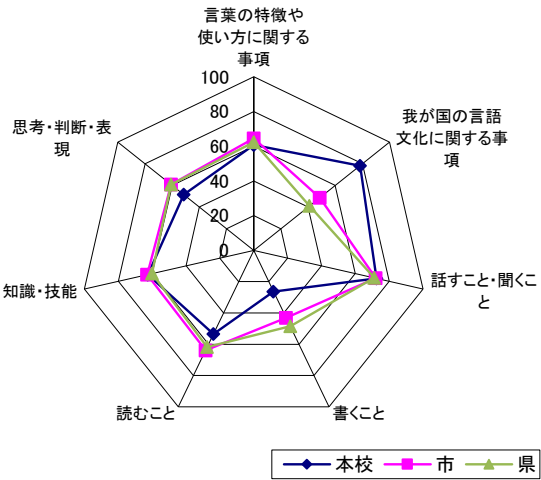
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	60.7	64.5	62.3
	我が国の言語文化に関する事項	78.3	48.7	41.1
	話すこと・聞くこと	72.5	72.1	71.2
	書くこと	26.3	43.1	48.5
	読むこと	53.5	63.9	61.8
観点	知識・技能	62.5	62.9	60.1
	思考・判断・表現	51.5	60.8	60.8



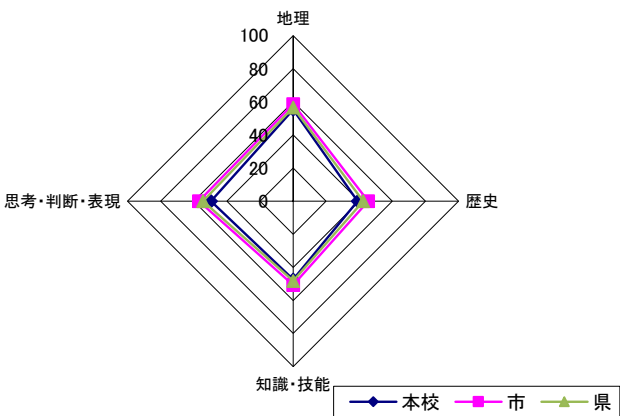
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を3.8ポイント下回っている。 ○漢字の「汗」を正しく読む問題では96.7%、漢字の「腹」を正しく書く問題では83.3%と正答率が高い。 ●漢字を正しく書く問題で「除去」は8.1ポイント、「垂れる」は20.5ポイント、市の平均を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字を正しく読んだり書いたりするために必要な「漢字の成り立ち」「音読みと訓読み」「部首の知識」の3点を身に付け、それを漢字の学習に生かしていくようにする。 ・家庭での学習時間を充実させ、授業で学習した内容の定着を図られるよう、「家庭での学習の進め方」や「時間の使い方」などの指導を継続していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均を29.6ポイント上回っている。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題の正答率は78.3%で、市の平均を29.6ポイント上回った。	・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題は、古典の読解を進めていく上で必要になる基礎的な知識なので、授業や問題演習の度に確認し、更に定着を図っていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を0.4ポイント上回っている。 ○話し手の話し方や話し手が話した内容を説明した文として適するものを選ぶ問題の正答率は約9割と高い。 ●司会者の話し合いの進め方の工夫として適するもの選ぶ問題では市の平均を8.3ポイント下回った。	・「相手が伝えたいことは何か」に焦点を当てたり、必要に応じてメモを取りながら話を聞いたりして、話の内容を捉える指導を継続していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を21.8ポイント下回っている。●資料を読み、160字以上200字以内の作文を書く問題では、市の平均を「調査結果から読み取ったことを書く」問題で21.9ポイント、「第1段落に書いたことを踏まえて、自分の考えとその理由を書く」問題で10.5ポイント下回っており、正答率も3割以下と低く、課題が見られた。	・200字程度の作文の問題については、演習を通して、「原稿用紙の使い方」「自分の考えを書くとはどういうことか」「問題に示された条件を構成や内容に反映させる考え方などに対する理解」を深めるようにしていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を10.4ポイント下回っている。 ●説明的文章では、文章を読んでもらうための配慮について説明した文章中の空欄に適する言葉を抜き出す問題では、市の平均を16.5ポイント下回っており、無解答率も45%いた。 ●文学的文章では、登場人物の考えを説明した文章中の空欄を当てはまる言葉を書く問題では、市の平均を19.5ポイント下回っており、無解答率も43%いた。	・説明的文章については、段落ごとに内容をまとめたり、接続語や指示語に注意しながら、筆者の主張を読み取ったりする読み方に加え、同義的言い換えを正確にたどれるようにしていく。 ・文学的文章については、登場人物の言動や情景描写を根拠に、心情を読み取る力は身に付いてきているので、自分の言葉として正しく使える、気持ちを表す言葉の語彙を増やすなどの指導を継続し、より深い読み取りができるようにしていく。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	55.3	58.7	56.6
	歴史	39.0	45.4	42.4
観点	知識・技能	47.3	50.7	48.2
	思考・判断・表現	49.6	56.9	54.4



★指導の工夫と改善

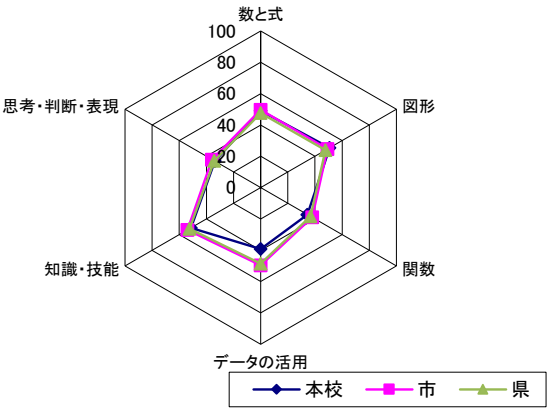
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>平均正答率は、市の平均を3.4ポイント下回っている。</p> <p>○空欄に当てはまる世界地図と方位として適切なものをそれぞれ選ばせ、様々な図法の特徴とその読み取り方を理解しているかを見る問題では3.6ポイント、日本とイタリアの気候を比較した文章の空欄に当てはまるものを選ばせ、温帯の気候とその地域の特色について理解しているかを見る問題では3.8ポイント、市の平均を上回った。</p> <p>●空欄に当てはまるアメリカ合衆国の農業の特色を述べた文を選ばせ、アメリカ合衆国の農業の特色について、資料を基に考察しているかを見る問題では14.4ポイント、資料から読み取れる原油の国際価格の変化を記述させ、原油の国際価格の変動の特徴を読み取り、表現しているかを見る問題では10.9ポイント、市の平均を下回った。</p>	<p>・地図やグラフの読み取り方について、授業の中で複数資料を活用し、読み取るポイントやまとめ方などを指導していく。</p> <p>・資料から読み取れることをまとめたり、話し合いなどを通してそこから特徴や課題を導き出す指導を今後も継続していく。</p> <p>・基礎的知識の習得を優先させ、スモールステップで知識の定着を図る。</p>
歴史	<p>平均正答率は、市の平均を6.4ポイント下回っている。</p> <p>○桓武天皇が行った軍隊の派遣と建設事業にかかわりがある資料・語句として適切なものを選ばせ、桓武天皇の政治について資料を基に判断しているかを見る問題では3.9ポイント、足利義満が行った貿易の名称とそこで銅銭が輸入された理由を選ばせ、室町時代の貿易と日本の社会や経済との関わりについて理解しているかを見る問題では5.6ポイント、市の平均を上回った。</p> <p>●古代の日本に関する資料から読み取れる内容を述べた文を選ばせ、古代日本の対外関係について理解しているかを見る問題では20.2ポイント、資料から読み取れる遣唐使廃止の理由を選ばせ、資料を基に考察しているかを見る問題では17.6ポイント、市の平均を下回った。</p>	<p>・調べ学習や動画などを活用し、歴史的事象への興味・関心を高めていく機会を今後も継続していく。</p> <p>・基礎的な知識の習得が不十分な生徒が多いことから、授業のはじめに前回までの学習内容の確認を行うとともに、基礎的な知識の習得のために小テストを実施し、学習方法など必要な手立てを今後も授業の中で示していく。</p>

宇都宮市立田原中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	49.1	49.7	47.6
	図形	50.8	49.2	47.7
	関数	34.4	38.0	36.8
	データの活用	39.2	49.6	48.5
観点	知識・技能	51.4	54.0	52.5
	思考・判断・表現	33.8	35.8	34.1



★指導の工夫と改善

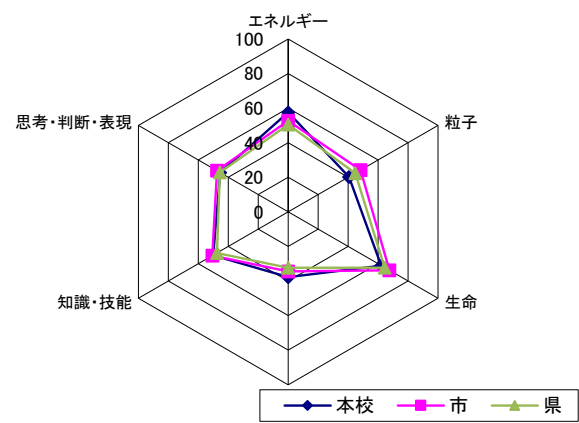
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、市の平均を0.6ポイント下回っている。 ○四則の混じった計算問題では2.4ポイント、1次方程式を解く問題では0.7ポイント、市の平均を上回った。 ●与えられた情報をもとに、数量の関係や法則などを文字を用いた式で表す問題では31.7%、不等式が表していることを説明する問題では25%無解答があり、県や市と比較して高い。	・計算演習を繰り返し行い、計算力の定着を図るとともに、計算の手順に必要な「等式の性質」などの知識を確実に身に付ける学習を積み重ねていく。 ・分からない問題に対して授業の中でも書かない生徒が多いので、間違えた問題をただ不正解とするのではなく、途中計算のどこで間違ってしまったのかを明確にして正答へ導けるよう丁寧に指導していく。
図形	平均正答率は、市の平均を1.6ポイント上回っている。 ○立方体から三角錐を切り取った立体の体積を求める問題では7.9ポイント、半球の表面積の求め方について正しくない理由を説明する問題では7.0ポイント、市の平均を上回った。 ●おうぎ形の面積をもとにおうぎ形と半径が等しい円の面積を求める問題においては、市の平均を7.7ポイント下回った。	・学年の全体的な傾向として、「目で見えたもの」にはよく反応して理解するのが早く、作図や平行移動などの図形の移動に関する理解度が高い。その反面、おうぎ形の公式は文字の意味を考えずに暗記しようとするため、理解度が低くなってしまっていると考えられることから、授文字を言葉の式とリンクさせながら考える学習を取り入れていく。
関数	平均正答率は、市の平均を3.6ポイント下回っている。 ○比例の式からyの値を求める問題では、市の平均を5.5ポイント上回った。 ●比例のグラフの直線が途中で止まっている理由をyの変域を示して説明する問題の正答率は5.0%で、市の平均を7.7ポイント下回っており、無解答率も50.0%と高い。	・関数を単に表、式、グラフだけをおさえるのではなく、身近な事象の問題を用いながら、式の意味や変化の仕方との関連などを考えさせることで深い学びにつなげていく。 ・グラフ上の三角形の問題は底面と高さの求め方を丁寧に指導していく。 ・与えられたグラフの中から数量を読み解く力を身に付けるために、授業で関数の考え方を利用した文章問題などを繰り返し解くことで理解につなげていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均を10.4ポイント下回っている。 ●度数分布からある階級の相対度数を求める問題では20.0ポイント下回っており、無解答率も50.0%と高い。 ●ヒストグラムから読み取った傾向をもとに自分の考えを理由とともに説明する問題では、市の平均を13.2ポイント下回った。	・「相対度数」などデータの活用の分野はいろいろな単語が出てくるので、意味を理解していないと問われていることが分からなくなってしまうため、度数分布表における用語の理解や代表値の求め方の復習を繰り返し行っていく。 ・ヒストグラムから読み取って答えたり、それらを比較し考えをまとめる問題を解いたりする学習を意図的に取り入れていく。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	57.6	52.7	50.5
	粒子	40.5	48.3	44.9
	生命	62.1	67.6	64.4
	地球	37.7	34.4	32.3
観点	知識・技能	50.1	50.7	47.6
	思考・判断・表現	45.5	47.6	45.6



★指導の工夫と改善

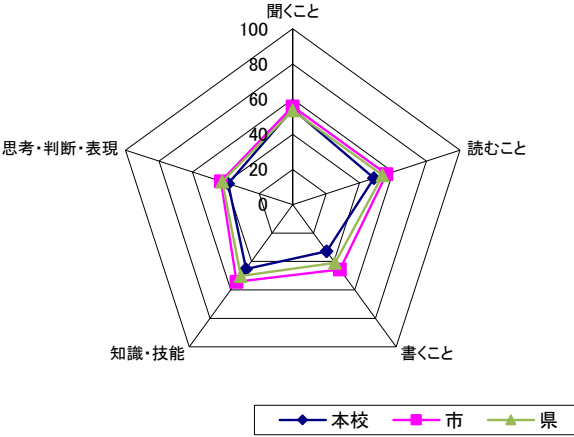
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市の平均を4.9ポイント上回っている。 ○凸レンズを通る光の作図、実験結果のグラフ化、おもりにはたらく重力の概念図の解釈など、物理現象を図で表す問題において市の平均を上回った。 ●語句や基本的な計算、適語補充問題では、市の平均を0.9～0.6ポイント下回った。	・昨年度から重点的に取り組んでいる方眼用紙や方眼黒板を用いた演習の成果が表れていることから今後も継続していく。 ・科学的概念を説明するための基礎知識の定着や活用に関しては課題があるため、小テスト等を通して、語句の定着や意味の理解から確認する学習を取り入れる。
粒子	平均正答率は、市の平均を7.5ポイント下回っている。 ○科学的概念を表した図を解釈する問題は、市の平均を8.6ポイント上回っている。 ●計算問題や数値を読み取る問題、実験結果を解釈・考察する問題の正答率が低い傾向にある。	・計算問題や数値の読み取りに関して、解法のステップを示した上で基礎問題に繰り返し取り組ませる等、丁寧に扱い、理解の定着につながる授業展開を工夫していく。 ・図で表現することに優れている傾向にあるため、積極的に図を用いて考えさせるなど、生徒のよさを生かした指導を行っていく。
生命	平均正答率は、市の平均を5.5ポイント下回っている。 ○模式図を読み取り、適当なものを選ぶ問題の正答率が市平均を3.1ポイント上回った。 ●文章や表から必要な情報を読み取り、提示された条件に合わせて情報を整理する問題への正答率が低い。	・生物の分類について、分類のルールを知識として有してはいるものの、それを実際の生物にあてはめて考える際に活用できていないことから、身に付けた知識を活用して考える機会を設け、深い理解につながる指導を工夫していく。
地球	平均正答率は、市の平均を3.3ポイント上回っている。 ○示準化石、火成岩の色と含有鉱物の種類の関係、岩石の組織の種類と成因の関係、地震波の到達時刻の問題で市平均を最大18.7ポイント上回った。 ●柱状図の問題では、市平均を4.9ポイント下回った。	・正答率が高かった問題群は、年度初めの授業で復習として扱ったものであったことから、復習の効果は大きいと言える。前年度までの内容を、現在の学習内容と関連させながら、練習問題を課す等、復習の機会を意図的に設けていく。 ・平面的な図への理解は優れているが、立体的・空間的な把握については不十分であることから、模型やシミュレーションソフトなど、印刷物以外を活用した授業を展開していく。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	54.3	55.8	53.5
	読むこと	48.6	56.0	53.8
	書くこと	32.8	45.6	40.9
観点	知識・技能	45.3	54.3	50.2
	思考・判断・表現	38.6	42.9	42.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、市の平均を1.5ポイント下回っている。 ○情報を正確に聞き取ったり、適切に応答したりする問題の正答率は高く、イラスト等を参考にした聞き取り学習の成果であると考え。 ●日常的话题について、必要な情報を聞き取る問題では、他の問題よりも著しく正答率が低い。	・今後もイラスト等を見ながら会話文を聞き、内容を適切に聞き取る学習を継続していく。 ・実際のコミュニケーションシナリオ(買い物や道案内など)を工夫し、情報を正確に聞き取って応答する学習、情報を正確に聞き取るだけでなく、聞き取った情報を自分の言葉に置き換えて発信したりする学習に力を入れていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を7.4ポイント下回っている。 ○学校生活について書かれた英文を読み、文中の空欄に入る適切な語を書く問題では、県の平均を1.6ポイント上回っている。 ●人称代名詞の目的格、動詞の過去形、3人称単数形、疑問詞の使い分けなど、基礎的・基本的な内容が身に付いているか確認する問題の正答率が低い。 ●対話文やある程度まとまった文を読み取る力が不足している。	・適宜、既習事項を復習する機会を帯活動等で取り入れ、「分かる・できる」と生徒が実感できるよう指導を工夫していく。 ・対話文や長文が理解できない原因は語彙不足によるものが大きいと、今後も授業の中で単語テストを取り入れ、語彙の習得につなげていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を12.8ポイント下回っている。 ○対話が成り立つように、与えられた語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして書く問題では、正答の条件を満たしている解答している生徒が市及び県より多い。 ●与えられた情報に基づいて新入生を紹介する問題の正答率が低く、1学年次に学習した文法事項が身に付いていない。 ●自分の考えを英文で表現することを苦手としている生徒が多い。	・既習事項を一つ一つ丁寧に復習するとともに、それぞれの既習事項を的確に使って英文が書く学習を繰り返して行っていく。 ・文法や語順に関する基礎的な学習を積み重ね、簡単な短い英文を書くことから始め、まとまった英文が書けるように指導していく。

宇都宮市立田原中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で自分で計画を立てて学習している」「学校の宿題は自分のためになっている」「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活に役立つと思う」の問いに対し、肯定的回答が市の平均、県の平均より高いことから、学習意欲をもって生活している様子が見られるとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の成果が現れていると言える。

○「家の人と将来のことについて話すことがある」「自分は家族の大切な一員だと思う」の問いに対し、肯定的回答が市の平均、県の平均より高いことから、家族関係が良好な家庭が多いことがうかがえる。

○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」の問いに對した肯定的回答は、市の平均、県の平均より高く、社会や地域に関心のある生徒が少なくないと言える。

○「道徳の授業は好きですか」の問いに対し、「はい」と回答した生徒は県の平均を13.7ポイント上回っており、道徳に対する関心が高く、将来のために大切だと思ってる生徒の割合も県の平均より8.3ポイント高い。

●「家で予習をしている」の問いに対する否定的回答が63%以上であることから、与えられた学習や課題には意欲的に取り組めるが、予習などの先を見通した学習に対しては苦手意識が強いことがうかがえる。

●「授業でわからないことは先生に質問できる」という問いに対する否定的回答が市の平均より10ポイント以上高いことから、何でも相談できる学級の雰囲気醸成されていると思われる。

●読書を好み、比較的読んでいる冊数も市の平均より多いが、一方で「問題を解く時間は十分であったか」という問いに対して十分ではないという解答が76%以上であったことから、読解力を十分に身に付けるために、読本に対する意識改革が必要であると考ええる。

●「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の問いに対し、肯定的回答は71.6%で、県の平均を9.2ポイント下回っていることから、教職員の意識改革、授業展開計画の吟味など、学校全体としてしっかりと取り組んでいく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本を確実に習得させ、自ら学ぶ意欲を育てる指導の充実	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・既習事項を生かすめあての提示と、振り返りを文章で書かせる活動の計画的な実践	・「家で自分で計画を立てて学習している」「学校の宿題は自分のためになっている」「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活に役立つと思う」の問いに対し、肯定的回答が市の平均より10ポイント以上高く、学習意欲をもって生活している様子が表れている。 ・「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。」の問いに対しては、肯定的回答割合が低く、今後は、より一層意識して取り組んでいく必要がある。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・読書は好きだが、教科の問題文を理解するのに、時間が掛かる傾向がみられる。 ・英語に苦手意識を持つ生徒が市の平均よりも多い。	・段階を追って考える授業 ・「褒める」「認め合う」授業の工夫	・段階を追って考える授業を継続的に行い、問題文が何を問うているのかを理解できるよう、指導する。 ・英語に限らず、粘り強く取り組む機会を作る。出来たら褒めることで、自信に繋げていく。